

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【川通小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語については、文における言語の使い方や、「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。目的に応じて相手に伝えるために、適切な言語を選択して話したり書いたりできるように、言葉を丁寧に扱っていく。算数においては、「数と計算」についての習熟に課題がある割合が比較的大きく、加減乗除の基本的な計算を習熟に応じて繰り返し行っていく。理科や社会については、「理科の言葉」や社会的事象に関するキーワードを丁寧に扱い、意味を理解できるようにする。
思考・判断・表現	国語においては、伝えたいことや表したいことを明確にできるように、文や資料から読み取ったことを根拠をもって説明する学習活動をより多く取り入れる。算数においては、課題や計画を自分たちで決めて学習を進めていくことで、実感を伴った学びにつなげていく。また、どの教科においても、ICTを効果的に活用して考えを比べながらまとめ、説明する活動をより積極的に行っていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	学習の目的をはっきりとさせて、自分に合った課題を見つけられるように、単元の導入過程にさらなる工夫をしていく。また、知識・技能のさらなる定着をめざして個に応じた学習過程をより多くの学習単元に取り入れる。学習成果が見えやすいように、ICTを活用して記録や保存をして学びのあとを振り返りやすくする。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」に関する領域において、R4年度の自校結果より3pt向上させる。	⇒ 漢字・計算ドリルや「スタディサプリ」、「ドリルパーク」を自主的・計画的に使い、反復練習をすることで、基礎的な計算力や読解力の向上を図る。また、月一回は児童の学習過程を振り返るようにする。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において「思考・判断・表現」に関する領域において、R4年度の自校結果より3pt向上させる。	⇒ 視点を明確にした話し合いの場を積極的に設定し、互いの考えを認め合うよさを実感できるようにする。また、思考のプロセスを振り返るように、ICT機器を活用して考えたことを共有したり、表現したりできるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 授業において目標を明確にして、学習過程に見通しをもたせ、主体的に学習に取り組めるようにする。また、ICT機器の活用をした学習を充実させ、意欲の向上につなげる。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」に関する領域において、国語は市の平均正答率より2.6ポイント上回っている。算数は市の平均正答率より2.3ポイント下回っている。2教科通して概ね市平均と同じになっている。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」に関する領域において、国語は市の平均正答率より1.2ポイント下回っている。算数は市の平均正答率より1.6ポイント下回っている。2教科通して市平均より若干下回っている。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は小5:100%、小6:94%となり目標値は達成したといえる。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析 (4月)	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+22pt、数学+13ptであった。国語では漢字の使い方や言葉の扱い方には課題が見られた。算数では図形の意味や性質の理解が高いが、グラフの読み取りや百分率などの理解に課題が見られた。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+20pt、数学+5ptであった。国語では目的に応じて情報を適切に判断して選んだり、文や話の内容を適切に捉えて考えをまとめることができたりした。算数では問題や資料から考えたことを数式や言葉にして記述することに課題が見られた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は100%で現時点では目標値を達成している。より一層、子ども主体の学びとなるよう、研修を通して授業改善に努める。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では、言語に関する事項の正答率が市の平均正答率より高く、「書くこと」への理解につながっている。一方で話の中心を相手に伝えるための話し方の理解に課題がある。算数では、図形の定義や立体の構成、測定に関する問題への理解ができているものが多い。加法や小数の減法、除法の計算などに課題が見られる。	小4	国語では、言語に関する事項の正答率が市の平均正答率より高く、「話すこと」への理解につながっている。一方で話の中心を相手に伝えるための話し方の理解に課題がある。算数では、図形の定義や立体の構成、測定に関する問題への理解ができているものが多い。加法や小数の減法、基本的な除法の計算などに課題が見られる。
小5	国語では、「書くこと」「読むこと」に関する平均正答率が市平均より上回っており、文や資料を正確に読み取って文に表すことができていると考える。一方で相手の意図をとらえながら聞き、言葉にすること課題がある。算数では、表やグラフの読み取りで正答率が高く、図形の特徴や構成要素をとらえることに課題が見られる。理科や社会においては事象を正確に捉えて、考えを表現することに課題が見られる。	小6	国語では、言語に関する事項の正答率や「読むこと」への正答率が高く、正確に言葉や文をとらえることができている。一方で資料を活用して、自分の考えを工夫することに課題がある。算数では、図形の特徴や構成要素の位置関係の把握などがよくできている。割合などの変化と関係を考えることに課題が見られる。理科や社会においては事象を正確に捉えて、考えを表現することに課題が見られる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 国語では文章作成の場面で漢字の使い方を意識して習熟する機会を多く設定する。算数では授業のはじめに計算の復習問題を設けて計算力の向上を図る。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 国語では文章の作成において目的意識を明確にして取り組み、書く力の向上を図る。算数では考えたことや理解したことを話し合ったり説明したりする場面をより積極的に設ける。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし